



みやま物語

江戸の巻  
巻のまじ  
ふれあふ  
こころの巻  
中

へ 13  
3194  
2





































頭 阿れ諾 ちん家いとうねや。さういひや  
 か ね鬼らんと大カりてまじむや。ぞん  
糞 くらねと 古事記日本 紀万葉 めるうご。まおりそよ  
 はなれとさうけしてしき遊ひや。し  
 ぶ家と。ほぶまよ 古語 發言 ぶぶのすの 詞 じ  
 ば。しねく。このぬる道にぬるとん  
 何ぞ。秋さうぶひまかへるなまを。いさ  
 乃たさるるね。た。何よ。も。い。く。ぬ。ま。を  
 ねが。い。ま。ま。ば。も。く。け。ぬ。入。カ。れ。け。る。也。

しひめいし。お。い。其。や。さ。み。ほ。ひ。よ。と。か  
 了。その。い。う。ら。た。ま。よ。ま。い。今。み。鬼。と  
 なる。て。も。あ。ね。る。も。さ。ら。ね。なり。ま。ま。  
 も。ぬ。ひ。ま。ま。や。し。ね。く。さ。け。た。ま。う。ね  
 と。う。ま。ぬ。し。那。返。せ。し。な。ぬ。返。す。ま。  
 と。い。ひ。何。が。そ。ま。 男 建 け。ぬ。 古事記 日本紀 ほ。い。ぬ。何  
 は。ま。い。ご。た。び。り。や。ぬ。ま。ひ。ほ。ら。ら。と。常  
 と。ま。ひ。よ。ぬ。乃。ひ。う。い。ま。い。く。し。

おの今時 まうらや。ぬ。む。む。ぬ。影。の  
まうら 志の。え。乃。そ。ら



けしあくならけよえれだ。桜のうら  
 白よ海乃。ちあうめく。あうま家のい  
 了。さてもちあうの葉。一葉のあうさ  
 ちうと今ぞちあうのく古備一葉のあうさ  
 ちあうのあう。ちあうのくま家のい  
諸のまことしうて身を

琴乃巻

八音を太刀にけしあうら。その  
四方名よもやま八表日本たう。世乃やまあひもれは万  
 まさうめんおのぼらとみよさひとみよな  
 ひさののほら。あまきとひさ。口ハセらふ  
 七あうある。人とらあめてらちあう古事く記声。  
 早もさう葉よのえあうもあう。あうハセらあう。  
 とくたちも。まらうとさういせあうまのい真くく今あうも乃まく  
 じうちあうのあう。母とてあうとあう。























とみちるさうらうやみおのひたかく  
古今集あぢのこころのまぢりかみよるの  
うけれるはまこ今やとくらじ たりとも  
 昔まのよりのたうなるれたる  
 じうらひのこころのこころのたれ  
 ぶととやこもまはそひのをた  
 おおごころのこころのこころの  
古今六帖のつらりつれまよま  
りてまのこあれてまのこ まいも  
いせゆあつひのたれまうらうらと  
らてまのこころのたれまのこ たりとも

木の尾乃所種は。母らも何と  
万葉のこ  
ちいのみま てもはるこころのこころ  
 がほよまのこころのこころの  
万葉人  
らぬるとま ともかたは

かのゆらぎのこころのこころの  
 かのゆらぎのこころのこころの  
 かのゆらぎのこころのこころの  
 かのゆらぎのこころのこころの

古今六帖



と何れと聞かすもけりく。左見 右見  
みいせ  
ぬせ

とらるる。いもいも。いもいも。いもいも。やうてかい  
とらるる。いもいも。いもいも。いもいも。いもいも。

いもいも。いもいも。いもいも。いもいも。いもいも。  
いもいも。いもいも。いもいも。いもいも。いもいも。

いもいも。いもいも。いもいも。いもいも。いもいも。  
いもいも。いもいも。いもいも。いもいも。いもいも。

いもいも。いもいも。いもいも。いもいも。いもいも。  
いもいも。いもいも。いもいも。いもいも。いもいも。

記

本集とを兼ねて人ハとてその常ぬきうにけり  
とて且日侍人も兼ねぬぬよき此はつるをせおてりる

うけのうけこと。をいもいもいもいもいもいも

うけのうけこと。をいもいもいもいもいもいも

うけのうけこと。をいもいもいもいもいもいも

うけのうけこと。をいもいもいもいもいもいも

うけのうけこと。をいもいもいもいもいもいも

うけのうけこと。をいもいもいもいもいもいも

うけのうけこと。をいもいもいもいもいもいも  
うけのうけこと。をいもいもいもいもいもいも

うけのうけこと。をいもいもいもいもいもいも  
うけのうけこと。をいもいもいもいもいもいも



























又さる何事其のえ乃相し。其の事々々入其家  
 なしひもとぞれど。はほごの何の事なれど  
 又何の事なれど。何の事もなかりし事。其の  
 にもみも其の事なれど。何の事なれど。其の  
 もたやと老の事なれど。何の事なれど。其の  
 じうじあつれしと。何の事なれど。其の  
 心より其の事なれど。何の事なれど。其の  
 身より其の事なれど。何の事なれど。其の  
 くゆの事なれど。何の事なれど。其の

「万無味の字」  
 葉に「い」の字あり

かゝる家なれど。其の事なれど。其の  
 昔の事なれど。其の事なれど。其の  
 とまゝにして。其の事なれど。其の  
 及乃其の事なれど。其の事なれど。其の  
 親の事なれど。其の事なれど。其の  
 なる事なれど。其の事なれど。其の  
 何の事なれど。其の事なれど。其の  
 ハ何の事なれど。其の事なれど。其の  
 が何の事なれど。其の事なれど。其の

日本記の事なり  
 傳へし事なり





















Handwritten text in a cursive script, likely a library or ownership stamp, enclosed in a rectangular border. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper. The script is dense and fills most of the page area within the border. The text is written in a cursive script, likely a library or ownership stamp. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper. The script is dense and fills most of the page area within the border.

Small handwritten characters or a mark at the top right corner of the page.

Small handwritten characters or a mark at the bottom right corner of the page.



